

産業建設常任委員会行政調査報告

期 日：令和8年3月25日(水)

午前10時00分～午後11時30分

調査内容：三春町における地域公共交通に関する調査

調査先：三春町議会

出席者：産業建設常任委員4名

説明者：三春町議会（三春町議会議長、事務局長）
三春町企画政策課（課長、係長）

国見町議会

渡 辺 勝 弘 委員長・・・・・・・・・・ 1

佐 藤 多真恵 副委員長・・・・・・・・ 3

山 崎 健 吉 議員・・・・・・・・・・ 5

松 浦 常 雄 議員・・・・・・・・・・ 6

令和8年視察研修報告書

令和8年3月28日

国見町議会議長 山崎 健吉様

報告者 渡邊 勝弘

日時 令和8年3月25日（水）

調査地 福島県 三春町役場

調査内容

- (1) 地域移動支援事業について
- (2) おでかけ応援隊・おでかけについて

内容

三春町は、昭和57年に旧7町村が合併してできた町であり、人口15,924人（令和8年3月1日現在）の町です。町民参加による活力あるまちづくりを推進するために、まちづくり協会を設立して地域での問題点を把握する事を目的として、アンケートを実施して「交通手段の確保」の点に不安を感じていることから、おでかけ応援隊（中郷地区）・おでかけ支援隊（沢石地区）の2地区が令和3年3月より運行開始しました。また、スクールバスの空いている時間帯にはコミュニティーバスとして利用しています。そのほかに、町内区域乗り放題の定額乗合タクシー「こまシェア」を運行しているという状況です。

感想・意見

当町においても、高齢者の通院・買い物の足の確保と行動範囲を広げる移動手段のために、デマンド交通「まちなかタクシー」事業を展開している。乗車率をあげるために様々なPRを行い、好評を得ていると思われるが、燃料費の高騰や人件費の高騰で事業費を抑えるための方策の一つとして、ボランティアの運転手の活用「ドライブシェア」の仕組みと活用について研修しました。高齢者

の移動手段として 3 つの事業を展開して、事業費年間 1 億円で運営していることでしたが費用対効果が見られないと感じられました。その上、乗り放題「定額」乗合タクシーについては、高齢者にとっては高額であり利用者が少ないと思えます。ドライバーの確保、利用料金の検討、残り 5 地区への展開をどのようにしていくのか課題があるようです。

しかし、「地域コミュニティと行政による新たな協働のまちづくり」として様々な支援事業を行い、地域住民の意見を集約して地域の皆さんが地域を守るという意識の向上につなげています。行政からが行なうことを遂行することではなく。自分たちが必要なことを考え、行政の補助金をいただく仕組みと考えます。そこが、当町と違う地域コミュニティづくりなのかもしれません。当町でも、「高齢者のゴミ出し」「住居の草刈り」「雪かき」など高齢者の不安を払拭すべき課題は地域の課題と捉え、今までとは違うコミュニティを考えさせられる素晴らしい研修でした。

議会終了後のお忙しいところ、対応していただきました三春町渡辺企画政策課長・三春町影山議会議長様に感謝申し上げます。研修報告といたします。

令和8年産業建設常任委員会行政調査報告書

令和8年 5月 8日

国見町議会議長 山崎 健吉 様

報告者 佐藤 多真恵

【調査内容】

(日 時) 令和8年3月25日午前10時～

(調 査 地) 三春町議会 (福島県田村郡三春町)

(調査内容) (1)地域移動支援事業について

(2)おでかけ応援隊、おでかけ支援隊について

【感 想】

(1) 地域移動支援事業について

三春町では、町営バス（コミュニティバス）と乗合タクシー（こまシェア）という交通手段がある。

町営バス（コミュニティバス）は、高校もあり人口も当町の倍あり、ある程度は成り立つのかと思われる。それでも、無駄をなくすため予約制等を取り入れ、効率化を図っている。

交通弱者向けにはドア・ツー・ドアのこまシェアの実証運行が行われている。それは、当町のまちなかタクシーと同等のものだが、料金体系が違っている。

3段階に分かれ、5,000円・10,000円・15,000円の月定額によって利用回数と利用地区がそれぞれ変わってくる。

当町より優れていると思われるところは、町外に行くことができるプランもあるところだ。

実状は、定額ということもあり、利用者の伸び悩みが課題だそうだ。

時間的には三春町は、17時、当町は16時であるが、当町は時間外を補う「もたんバス」があり、7時から19時まで、まちなかタクシー運行外に利用できる点は優れていると感じた。

(2)おでかけ応援隊、おでかけ支援隊について

三春町で行っている移動支援でも、交通弱者が生じる地域が存在する。

7地区の内2つ（沢石・中郷地区）については、地域コミュニティと行政による

新たな協働のまちづくりの一環として、移動支援事業を行っている。料金は無料であり、地域の助け合いによる取り組みとなる。費用等は町が負担している。

問題として、運転を担う人々の高齢化や、ボランティアが感じるやらされ感、利用者の無料への遠慮など生じている。

他地区へ広がった場合、タクシー事業者との連携した取り組みも必要となると推測される。

当町への参考になった点

まちなかタクシーやももたんパスは、町民のことをよく考えていることの再確認となった。梁川町以外の町や福島市へも低額で移動できれば、利便性が向上すると思われる。タクシー事業者が撤退していく中、町民の助け合いの気持ちが一層重要なことと思う。

また、国見町にこのような移動支援があることが、高齢者等全てに知れ渡っているかが気になるところである。ことあるごとに、この事業について認知しているか尋ねることも、私たちの責務とも思えた。

産業建設常任委員会視察研修報告

令和 8 年 3 月 28 日

国見町議会議長 山崎 健吉様

報告者 山崎 健吉

【実施日】令和 8 年 3 月 25 日

【場 所】三春町議会

【参加者】産業建設常任委員・住民防災課

【調査項目】①地域移動支援事業について
②おでかけ応援隊、おでかけ支援隊について

① 地域移動支援事業について

三春町は、町民参加による活力あるまちづくりを推進するため、町内会とは別に(まちづくり協会)を昭和 57 年に設立し、行政区と連携し、町からの交付金や行政区からの助成金を財源として、地域の課題解消や活性化に取り組む組織としている。その内容は幅広く、地域の景観維持のための道路敷の草刈、ゴミ拾いや地域文化の継承や行事、地域での相互扶助など幅広い支援を行っている。その一環として地域移動支援事業として令和 3 年から 7 地区の内 2 地区が高齢者・交通弱者の移動手段の確保として始めた事業である。

② おでかけ応援隊、おでかけ支援隊について

目的は、高齢者・交通弱者の移動手段の確保とし、運行範囲は町内のみとし、運行時間も原則 9 時 30 分から 16 時 30 分までとし、利用料は無償で運行している。ドライバーには報償費として 1 時間あたり、県の最低賃金が、まちづくり協会から支給されている。車両は町が協会へ貸与し、保険も町が加入している。令和 3 年から実施されているが、昨年までの地区の利用状況をみると、1 地区で年間 100 人前後とのことである。この事業は見直しを検討すること。

【感想】

今回の視察研修は、当町が抱えている高齢者等の、移動手段をどの様にして行くべきかを調査した。調査地は現在モデル事業として、利用料無料としているが、利用しやすさの観点から見直しを検討している。国見町も現在実施している、町内移動以外に、隣接町内への移動についても、検討していかなければならない。

産業建設常任委員会行政調査報告書

国見町議会議長 山崎健吉様

国見町議会議員 松浦常雄

- 1 視察日時 令和8年3月25日(水) 午前10時～
- 2 視察先 三春町役場 企画政策課
- 3 出席者 渡辺勝弘、佐藤多真恵、山崎健吉、松浦常雄、住民防災課長 榑英則、住民防災課員 斎藤恵美子、議会事務局長補佐 石澤 廣
- 3 調査の目的 地域の移動支援事業について
- 4 調査の内容
 - (1) 三春町公共交通実証プロジェクト「こまシェア」について
 - (2) 地域の移動支援事業
 - ①中郷おでかけ応援隊 ②沢石おでかけ支援隊
 - (1) 「こまシェア」・・・町内乗り放題の「定額」乗り合いタクシー、登録制。
町で交通事業者と連携して「ドア・ドア(自宅から目的地まで)」による新たな公共交通の実現に向けて、昨年度に引き続き実証運行を行っている。
プランは3種類。
 - ① ライトプラン(月額5千円) エリア:町内及び郡山市・田村市の一部、月4日間乗り放題。
 - ② ベーシックプラン(月額1万円) エリア:ライトプランに同じ 回数:1か月乗り放題
 - ③ ワイドプラン(月額15千円) エリア:町内1か月乗り放題及び郡山市、田村市内の限定エリア)
 - (2) 地域の移動支援事業・・・登録制。
 - ①中郷おでかけ応援隊 ②沢石おでかけ支援隊
 - ・月～金までの間に3回実施。土日は地域で柔軟に対応。
 - ・2つの地域に各1台車が貸与。地区内で運転手を複数人登録しておき、地区内の受付係が利用者の受付、運転手の依頼等、調整を行う。
 - ・運転者と受付係には働いた時間に応じて町から費用が支払われる。
報償費は、1時間あたり1,033円
 - ・利用者はある程度想定されている。
- 5 調査の結果
 - (1) 「こまシェア」:郷土玩具の三春駒を冠した移動支援事業。
3種類のプランがあり、町内だけでなく近隣の市内へも利用できるのも便利。
このうちのワイドプランは、近隣への市町への移動ができるので国見町でも参考になると思う。
 - (2) 中郷おでかけ応援隊、沢石おでかけ支援隊については、受付係や運転手の確保し、利用者と運転手の連絡調整を図り運行する。人員を確保し、運行を軌道に乗せることは容易でないと思われる。